適用範囲		型式		CC17	CC17R	CC19	CC19R
		適用号機		3011～	3011～	3011～	3011～
		質量 kg		2300	2400	3650	3750
		取付可能機体質量（単位t）		18～25	18～25	30～38	30～38
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値			
旋回装置	旋回ベアリング	内輪ボルトサイズ	mm	16	16	18	18
		締付トルク	N・m	245～309	245～309	343～426	343～426
			kg・m	25～31.5	25～31.5	35～43.5	35～43.5
		外輪ボルトサイズ	mm	16	16	18	18
		締付トルク	N・m	245～309	245～309	343～426	343～426
			kg・m	25～31.5	25～31.5	35～43.5	35～43.5
油圧装置	シリンダー（図4-16参照）	開閉シリンダーL					
		伸縮量	mm	30	30	30	30
		測定時間	分	3	3	3	3
圧砕・切断部	カッター（図4-17参照）	カッターの隙間B					
		基準値	mm	0.5	0.5	0.5	0.5
		許容限度	mm	1.5	1.5	1.5	1.5
	カッターエッジ（図4-4参照）	カッターエッジR					
		基準値	mm	0	0	0	0
		許容限度	mm	3.0	3.0	3.0	3.0
	カッター取付ボルト	ボルトサイズ		16	16	16	16
		締付トルク	N・m	245～309	245～309	245～309	245～309
			kg・m	25～31.5	25～31.5	25～31.5	25～31.5
	圧砕ポイント（図4-18参照）	圧砕ポイントC					
		基準寸法	mm	0	0	0	0
		許容限度	mm	50	50	50	50
		圧砕ポイントD					
		基準寸法	mm	0	0	0	0
		許容限度	mm	30	30	30	30

検査基準値							

1．開閉シリンダー伸縮量の測定

①測定具を地面から浮かせた状態で垂直に保持し、アームを全開状態（シリンダー収縮）で行う。

②ショベルのエンジンを停止してからホース内の残圧を抜き、aのストップバルブを閉じる。

③3分間経過後に再度L部の寸法測定し、伸縮量とする。

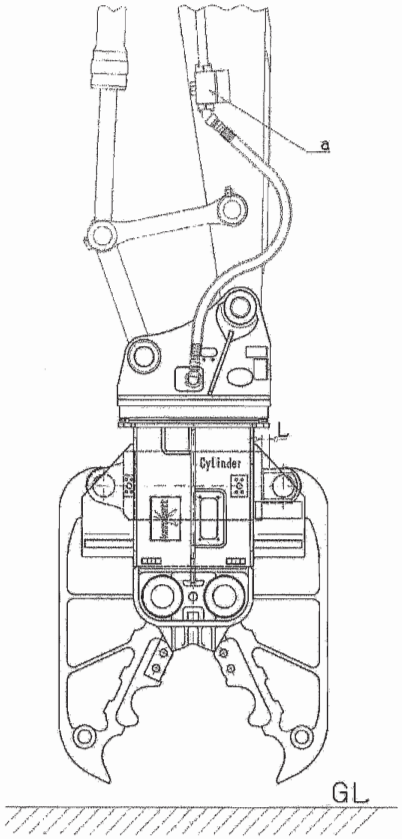

図 4-16　開閉シリンダーの伸縮量測定

2．カッターの隙間測定

①本体を水平に置きアーム全閉状態（シリンダー伸長）で測定する。

②スキマゲージによりB寸法を測定する。

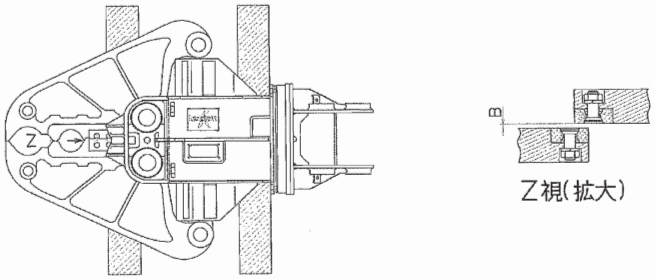

図 4-17　カッターの隙間測定

3．圧砕ポイントの測定

①本体を水平に置きアームを全閉状態（シリンダー伸長）で行う。

②C先端ポイント・D中間ポイントのすき間を測定する。

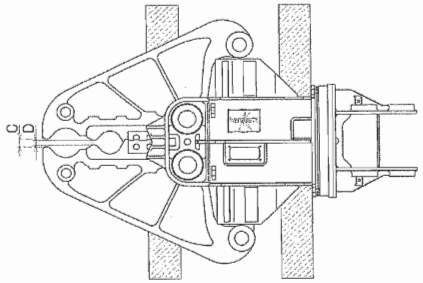

図 4-18　圧砕ポイントの測定